

## 地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来(5) - 学会と社会の関わり・研究者の働き方の多様性

### Current status and future vision of the geomagnetism and earth (5), contribution to the society and work-life balance

畠山 唯達<sup>1\*</sup>, 長妻 努<sup>2</sup>, 坂野井 和代<sup>3</sup>, 尾花 由紀<sup>4</sup>, SGEPSS 将来構想 WG<sup>5</sup>

Tadahiro Hatakeyama<sup>1\*</sup>, Tsutomu Nagatsuma<sup>2</sup>, Kazuyo Sakanoi<sup>3</sup>, Yuki Obana<sup>4</sup>, The SGEPSS future survey working group<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 岡山理科大, <sup>2</sup> 情報通信研究機構, <sup>3</sup> 駒澤大, <sup>4</sup> 大阪電気通信大, <sup>5</sup> 地球電磁気・地球惑星圏学会

<sup>1</sup> Okayama University of Science, <sup>2</sup> NICT, <sup>3</sup> Komazawa University, <sup>4</sup> Osaka Electro-Communication University, <sup>5</sup> Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) では、2012年5月に将来構想検討ワーキンググループを発足させ、学会としての将来構想「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」をまとめてきた。この将来構想は、2013年1月の時点で完成版を作成し、学会ホームページでの公開と冊子体の作成を行った。本発表では、この「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」のうち、「第6章：学会と社会の関わり・研究者の働き方の多様性」についての紹介をする。ここでは、(1)アウトリーチ・啓蒙活動、(2)学校教育、(3)研究者のワークライフバランス(男女共同参画活動やポストドク問題を含む)について、本学会や地球惑星科学分野の現状をまとめ、将来の方向性や施策についての提言を行っている。6章で取り扱っている内容は、研究活動の将来と直接関係するものではない。しかし、我々の研究活動を継続・発展させていくためには、国民に対する説明責任を果たし、得た知見を社会に還元することが重要である。さらに、研究コミュニティの持続的発展のためには、研究者の充実したライフスタイルの実現を阻害する要因を無くしていくための努力や提言が不可欠である。このような観点から将来構想の中の独立した章として、我々が研究活動を推進していく背景となる学会と社会の関わり・研究者の働き方の多様性について述べている。

キーワード: 地球電磁気・地球惑星圏学会, アウトリーチ, 学校教育, ワークライフバランス, ポストドク問題, 男女共同参画

Keywords: SGEPSS, public outreach, education at schools, work-life balance, postdoc problem, gender equality